

論理的な文章の基本構造を**視覚的に理解できる**ページから、「現代の国語」の学習がスタートします。



## 序論

なぜ、……………なのだろうか。

**まず、** .....  
**例えば、** .....

次に、……。このことは、

一方、……。

〇〇は、著書『××』の中で、次のように述べている。

## 本論

たしかに……………だが、……………

つまり……………○

## 結論

このように、.....すべきである。

### 問題提起

何について書かれた文章かが表示される。「……なのだろうか。」「本当に……といえるのだろうか。」などの問いに着目する。問いの形で示されていない場合は、話題についての背景や状況の説明から、筆者の問題意識を把握する。

## 主張を導くための論証

序論で提起された問題について、主張を導くための根拠と、根拠をもとに仮説や反論を立てて論証していく過程が示される。その展開を捉えることが、論理的文章を読み解く上で最も重要となる。そのために、次のような点に注意して、語や文、段落がどのような関係で結びついているかを把握する。

◆指示語

「この」「これ」「その」「それ」などの指示語が指す内容を確におさえる。直前の語や文を指すだけでなく、離れた箇所にも述べられた内容やひとまとまりの文章を指す場合もある。

◆引用

根拠として、他の人の文章や統計のデータなどを引用して示す場合がある。「○○は……」と述べている。「○○によれば……」などの表現に着目し、引用された内容が、筆者の論理をどのように補強しているかを捉える。

250 ページ

◆ 比較

複数の事例を示して比較することで、それぞれの特徴や物事の本質が鮮明になる。【一方  
それに対して】 などの表現に着目して比較されている事例を捉え、比較によって筆者が何を明らかにしたいのかを把握する。

◆ 接続

接続表現に着目することで、文や文章どうしの関係を捉えることができる。

255 ページ

253 ページ

● **「まず」「次に」** など……順序を表す表現。根拠となる事例が、どのような順序で、いくつ示されているかをおさえる。

●「例えば」「具体的には」など……具体例を示す表現。根拠として示される事例やデータと筆者の考えが述べられている部分とを区別して捉える。

●「だが」「しかし」など……逆接の表現。前に述べられた内容より、あとに述べられている内容のほうが、筆者のいいたい重要なことである場合が多い。

●「つまり」「要するに」など……前に述べた内容を言いかえる表現。個別の事例から特徴を抽出し、抽象化・一般化して述べるため、文章全体における重要な文（キーセンテンス）となる。

●「このように」「これまで述べてきた通り」など……これまでに述べた内容をまとめる表現。  
本論で論証されたことがどのように主張に結びついていくかを捉える。

## 主張

序論で提起された問いに対して、筆者の答えが示される。……すべきである。……しなければならない。……といえる。……などの表現に着目し、筆者がどのような立場で答えを出したかを捉える。

東海の小島の磯いその白砂に

われ泣きぬれて

蟹とたはむる

いしかわたくぼく  
石川啄木



歌集『握の砂』の巻頭に置かれたこの歌には、論理的文章の基本構造を読み解くためのヒントが隠されている。この歌は、まず「東海」という広大な空間を提示するところから始まって、そのあとに「小島」↓「磯」↓「白砂」↓

「われ泣きぬれて」という順で、徐々に空間が狭まっていく。空間が狭まっていくと同時に、読み手の焦点も定まっていく。実は私たちが論理的文章を読むときも何について、どんな角度で、どのように語られているのかを、少しずつ視点を絞ってこみながら読んでいく。筆者がたどった思考の筋道を表すのが論理的文章である。ならば私たちは、その跡をたどって、筆者の問題意識と立場を探っていく。読むことはまさに、筆者という見知らぬ他者との対話にはかならない。

## 結論

＊結論が文章の最後に来る  
「尾括型」以外に、「頭括型」「双括型」もあるので注意する。

【尾括型】 【頭括型】 【双括型】

結論 結論

## 結論

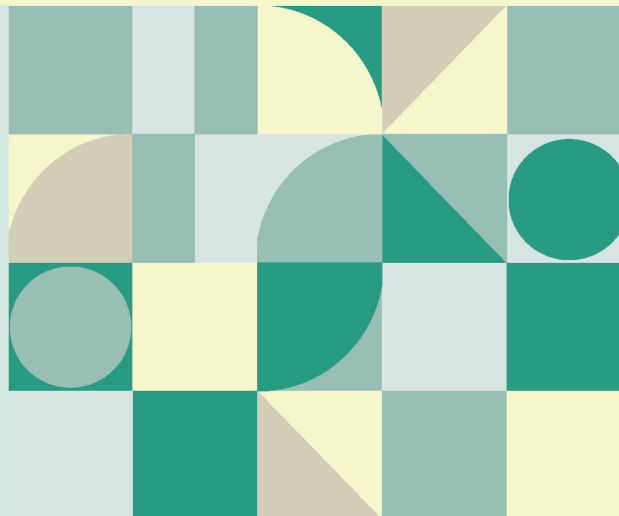
## 結論

「現代の国語」という科目で何を学習するのか、イメージをもつことができますとともに、**基本的な知識・技能を身につける**ことができます。

全ての単元は、テーマに基づく**複数の評論教材**と、探究的な言語活動「**学びを広げる**」、さらに単元テーマに関連する「**参考**」の文章とで構成されています。全単元が同じサイクルの単元構成になっているため、**授業やカリキュラムが組み立てやすくなっています**。

## 2 文化を見つめる

書くこと



### 水の東西

●比較することで文化の特徴を明らかにする論理展開の仕方を理解する

山崎正和

### 無彩の色

●色彩に着目して文化の特徴を論じる文章構成や表現の工夫の仕方を理解する

港千尋

### 学びを広げる

### 身近な日本文化を紹介しよう

●読み手の理解が得られるよう、文章構成や表現を工夫する

### 参考

相手のことを考える

——日本のお祭りはどういうものですか？

野矢茂樹



各教材で身につけたい言語能力を、学習目標として明示しました。その教材で「何を学ぶのか」を明確にして学習に取り組むことで、**確かな学力**へとつながります。

# 水の東西

やまざき まさかず  
山崎正和

参考資料



資料編 242 ページ



鹿おどし

「鹿おどし」が動いているのを見ると、その愛嬌の中に、なんとなく人生のけだるさのようなものを感じることがある。かわいらしい竹のシーソーの一端に水受けがついていて、それに筧の水が少しずつたまる。静かに緊張が高まりながら、やがて水受けがいっぱいになると、シーソーはぐらりと傾いて水をこぼす。緊張が一気にとけて水受けが跳ね上がる時、竹が石をたたいて、こおんと、くぐもった優しい音をたてるのである。

1 鹿おどし 庭園装置の一つ。本来は、その音で田畑を荒らす鹿や猪などを追い払うための仕掛け。「添水・しかおどし」ともいう。

2 筧 水を引いてくるために竹や木で作った樋。

見てみると、単純な、緩やかなリズムが、無限にいつまでも繰り返される。緊張が高まり、それが一気にほどけ、しかし何事も起こらない徒労がまた一から始められる。ただ、曇った音響が時を刻んで、庭の静寂と時間の長さをいやがうえにも引き立てるだけである。水の流れなのか、時の流れなのか、「鹿おどし」は我々に流れるものを感じさせる。それをせき止め、刻むことによって、この仕掛けはかえって流れてやまないものの存在を強調しているといえる。

私はこの「鹿おどし」を、ニューヨークの大きな銀行の待合室で見たことがある。日本の古い文化がいろいろと紹介される中で、あの素朴な竹の響きが西洋人の心をひきつけたのかもしれない。だが、ニューヨークの銀行では人々はあまりに忙しすぎて、一つの音と次の音との長い間隔を聴くゆとりはなさそうであった。それよりも窓の外に噴き上げる華やかな噴水のほうが、ここでは水の芸術として明らかに人々の気持ちをくつろがせていた。流れる水と、噴き上げる水。

そういえばヨーロッパでもアメリカでも、町の広場にはいたるところにみごとな噴水があった。ちよつと名のある庭園に行けば、噴水はさまざまな趣向を凝らして風景の中心になっている。有名なローマ郊外のエステ家の別荘など、何百という噴水の群れが庭をぎっしりと埋めつくしていた。樹木も草花もここでは添え物にすぎず、壮大な水の造型がとど

問①「それ」とは何を指すか。

3 エステ家 十三世紀中頃から十八世紀末にかけて、北イタリアで勢力を誇った封建貴族。

\* 語句

愛嬌 徒労 趣向

2

文化を見つめる

水の東西

31

適宜発問を置き、読解を支えとともに、教材末の「課題」へとスムーズにつながります。

各教材の二次元コードから、参考動画やウェブサイト、文章構成に関する講義動画、デジタルドリルなど豊富な学習コンテンツにアクセスできます。

30



## 2

文化を見つめる

水の東西

ろきながら林立しているのに私は息をのんだ<sup>\*</sup>。それは揺れ動くバロック彫刻さながらであり、ほとばしるというよりは、音をたてて空間に静止しているように見えた。

時間的な水と、空間的な水。

そういうことをふと考えさせるほど、日本の伝統の中に噴水というものは少ない。せせらぎを作り、滝をかけ、池を掘って水を見ることはあれほど好んだ日本人が、噴水の美だけは近代に至るまで忘れていた。伝統は恐ろしいもので現代の都会でも、日本の噴水はやはり西洋のものほど美しくない。そのせいか東京でも大阪でも、町の広場はどこもなく間が抜けて、表情に乏しいのである。

西洋の空気は乾いていて、人々が噴き上げる水を求めたということもあるだろう。<sup>5</sup>ローマ以来の水道の技術が、噴水を発達させるのに有利であったということも考えられる。だが、人工的な滝を作った日本人が、噴水を作らなかった理由は、<sup>6</sup>そういう外面的な事情ばかりではなかったように思われる。日本人にとって水は自然に流れる姿が美しいのであり、圧縮したりねじ曲げたり、粘土のように造型する対象ではなかったものであろう。

言うまでもなく、水にはそれ自体として定まった形はない。そうして、形がないということについて、おそらく日本人は西洋人と違った独特の好みをもっていたのである。「行雲流水」という仏教的な言葉があるが、そういう思想はむしろ思想以前の感性によって裏

16

10

5

……\*  
\* 語句  
息をのむ 感性

<sup>5</sup>ローマ以来の水道の技術  
紀元前四世紀末から紀元後  
三世紀初めにかけて、古代  
ローマでは上水道や下水道  
が整備されており、高度な  
技術を誇っていたといわれ  
ている。

<sup>6</sup>問2「そういう外面的な事情」  
とは何か。

<sup>6</sup>行雲流水 空を行く雲や川  
を流れる水のように、一切  
を自然に任せること。

<sup>4</sup>バロック Baroque（フラ  
ンス語）十六世紀末頃から  
十八世紀中頃にかけて、  
ヨーロッパで流行した芸術  
の様式。建築や美術におい  
ては、複雑さと華やかさを  
特徴とする。



エステ家の噴水



日本庭園（京都市・実光院）

写真を複数配置し、文章の理解を助けるとともに、より豊かなイメージをもちながら、興味をもって文章を読み進めることができます。

必要十分な脚注が、正確かつスムーズな読解を導きます。



単元扉で示した学習目標を達成するための手立てとして、内容理解のための「課題A」と、学習を深めるための言語活動「課題B」とを設定しています。

## 2

文化を見つめる

水の東西

## 課題A

- 筆者が、「鹿おどし」に「なんとなく人生のけだるさのようなものを感じる」(302)のはなぜか、まとめよう。
- 筆者は、「鹿おどし」と「噴水」とを、どのようなものとして捉えているか。本文中から対句的表現を三つ探し、それを手がかりに整理しよう。
- 『鹿おどし』は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けだといえるかもしれない。(346)とあるが、その理由を本文の内容にそってまとめよう。

## 課題B

- この文章の構成や展開の特徴を指摘し、その効果について話し合おう。
- 『〇〇の東西』というテーマで、地域や文化によって感じ方や考え方の違いを感じさせるものをあげ、その違いを簡潔にまとめよう。



山崎正和 一九三四（昭和九）年～二〇二〇（令和二）年。京都府の生まれ。劇作家・評論家。人間を劇的存在と見る人間観をもとに広範な文明批評を展開した。戯曲に「世阿弥」、著書に『劇的な日本人』『隅外 闘う家長』『混沌からの表現』などがある。

■出典 『山崎正和著作集5』（一九八一年）

づけられていた。それは外界に対する受動的な態度というよりは、積極的に、形なきものを恐れない心の現れではなかっただろうか。

見えない水と、目に見える水。

もし、流れを感じることでだけ大切なのだとしたら、我々は水を実感するのにもはや水を見る必要さえないといえる。ただ断続する音の響きを聞いて、その間隙に流れるものを間接に心で味わえばよい。そう考えればあの「鹿おどし」は、日本人が水を鑑賞する行為の極致を表す仕掛けだといえるかもしれない。

問3「それ」とは何を指すか。

………\*語句  
受動 間隙 極致

## 語彙と漢字

- 次の語の対義語を調べよう。
 

|     |     |
|-----|-----|
| ①緊張 | ③無限 |
| ②単純 | ④静止 |
- 次の漢字の読みを書こう。
 

|     |     |     |     |
|-----|-----|-----|-----|
| ①静寂 | ②素朴 | ③趣向 | ④極致 |
|-----|-----|-----|-----|
- 次の傍線部の片仮名を、意味に注意して漢字で書こう。
 

|             |             |
|-------------|-------------|
| ①貯蓄をカンショウする | ②一定のカンカクを保つ |
| ③試合にカンショウする | ④方向カンカクを失う  |
- 次の傍線部の片仮名を漢字で書こう。
 

|                 |               |
|-----------------|---------------|
| ①公園のフンスイで水遊びをする | ②コフン時代について調べる |
| ③不当な扱いにフンガイする   | ④コウガイの住宅に引越す  |
| ⑤葉のコウカが現れる      |               |
- 次の傍線部の漢字を使った熟語を書こう。
 

|      |      |      |      |      |
|------|------|------|------|------|
| ①緩やか | ②忙しい | ③華やか | ④凝らす | ⑤ぞしい |
|------|------|------|------|------|

語彙を豊かにするため、読み書きだけでなく、形が似ている漢字や同音異義語なども交えた問題を提示しています。

二次元コードからアクセスできる「知識・技能デジタルドリル」では、教材ごとの語句・漢字などを繰り返して学習できます。

各単元とも、それぞれのテーマに基づいた**複数の評論教材**を掲載しています。

# 無彩色の色

みなとち ひろ  
港千尋

参考資料



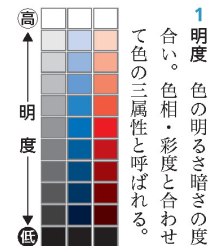
資料編 242 ページ

## 無彩色の色

彼はネズミ色の服を着ていた。

こう書くと、誰もが同じような色を想像する。実際には白いネズミや黒いネズミもいるのだが、色としてはグレーを考えるのが普通だ。ネコ色という言葉がもしあったとしても、一つの色がみんなの頭に浮かぶとは思えない。明るい色、暗い色、いろいろな茶色も含まれるだろう。ネズミ色のほうは、ほとんど無彩色である。<sup>1</sup>明度の違いだけで彩りのない色、灰色の世界である。

色の好みは人それぞれだが、色の感じ方には共通するものがある。暖色や寒色という言葉があるように、色に温度を結びつけたり、ある感情を与える作用を認めたりする。どの文化でも大概赤は注意や警戒感を与えるし、青はその反対に沈静<sup>\*</sup>をもたらす。二つの色を混合して得られる紫は、日本でもヨーロッパでも昔は高貴な色として、特別な階級の人々



の服装に使われた。『源氏物語』が別名「紫の物語」と呼ばれたように、色が物語を象徴することさえある。

<sup>①</sup> その点、ネズミ色はあまりいい意味をもたされていない。なにしろ世界中どこでも害獣とみなされているネズミの色なのだし、これを灰色と言いかえても、否定的な意味に結びつく。ネズミ色の服を着た人が、煤<sup>\*</sup>けたような壁に囲まれて、灰色の茶碗<sup>ちawan</sup>を手をしているとしたら、ずいぶん地味でおもしろみのない世界を想像するのが普通だろう。「灰色の世界」と聞けば、明るく楽しい世界の反対がイメージされるし、「グレーゾーン」といえば、曖昧でどっちつかずと怪しまれる。

だが身のまわりに目を向けると、わたしたちが生きている世界には意外に灰色が多い。舗装された道路、コンクリートの建物、さまざまな配管、電柱に電線……都市生活を取り巻く環境の大部分はこの色で占められている。公共空間だけでなく、オフィスや自宅でも多くの製品にグレーが使われる。特別な意味をもたず、特別な感情にも結びつく必要がない場所では、グレーのほうがいい。

## 色と安定

もし都市環境のあらゆる場所に鮮やかな色がつけられていたら、わたしたちの感覚はま

<sup>2</sup> 『源氏物語』平安時代中期の成立。作者は紫式部。

問①「その点」とはどのような点か。

単元の中で複数の文章を**読み比べて**、より批判的な思考力を高めることもできます。

活動の手順を丁寧に示すとともに、生徒の文章例や発表例を掲載しています（二次元コードに補充コンテンツもあり）。学習の見通しやゴールイメージをもちながら、**充実した探究的活動**に取り組むことができます。

## 2

文化を見つめる

学びを広げる 身近な日本文化を紹介しよう

多いと思います。

この折り紙が「ORIGAMI」という国際語になっていて、イギリス、イタリア、スペイン、オランダなどに折り紙協会があることを新聞で知って、驚きました。そこで折り紙の歴史を調べたので紹介します。

折り紙は、紙が日本に伝来して以来、生活の中で自然発生的に起こり、やがて儀式や信仰の中で紙を折る技法が発展したといわれています。室町時代には幕府によって武家独自の礼法として正式に位置づけられ、折り目正しく折り、物を心をこめて包み渡す「折方礼法」として普及しました。江戸時代になると遊戯折り紙として庶民に広がり、八十種類の折方が考案されました。明治後期から大正時代にかけては小学校・幼稚園の教育に取り入れられ、以来今日まで子どもの遊びとして定着してきましたが、現代では知能開発教育の方法としても見直されています。

このように折り紙は、日本の伝統的な文化の一つですが、「ミウラ折り」のように人工衛星の太陽電池パネルを折りたたむために用いられたり、エアバッグの折りたたみや医療用の人工血管の折りたたみに応用されています。折り紙は現在も進化しており、奥の深い日本文化だと改めて思いました。

15



10



5



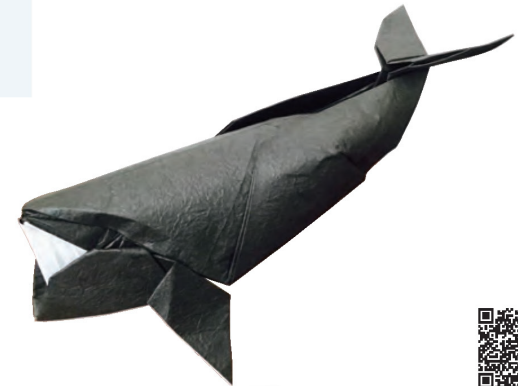
43

## 折り紙

一年二組 山本はるか

折り紙は、紙を折ることで、動植物や生活用品など、さまざまな形を作りあげることを楽しむ遊びです。日本人の多くが、子どもの頃に体験したことがあるのではないのでしょうか。鶴、風船、奴さん、兜など、今でも紙さえあれば折ることができる人も

5



参考資料



## 学びを広げる 身近な日本文化を紹介しよう

- 1 44ページの「相手のことを考える——日本のお祭りはどういうものですか?」(野矢茂樹)を読み、「読み手に伝わる文章」を書くにはどのような工夫が必要か、話し合おう。
- 2 次の紹介文例「折り紙」を読み、文章の構成や表現の仕方、話題や内容について気づいたことを発表しよう。
- 3 各自で紹介文の読み手を想定し、六〇〇字程度で身近な日本文化についての紹介文を書こう。

評論教材で身につけた言語能力や読み取った内容を活用できる**探究的な言語活動「学びを広げる」**を、各単元に用意しています。

42



単元のテーマに沿った追加の文章「参考」を、単元の最後に掲載しています。「学びを広げる」の言語活動に役立てたり、評論教材との**比べ読み**に活用したりすることができます。

## 参考

## 相手のことを考える

——日本のお祭りはどういいうものですか？

太郎は外国に滞在中、そこで日本語学校に通っている女性と知り合った。彼女は日本語はかなりできるが、日本に行ったことはないし、日本についての知識もあまりない。あるとき、「お祭り」について尋ねてきた。日本のお祭りというのは、どういいうものなのか。「お祭り」という言葉の意味はだいたいわかるが、具体的にどんな様子なのか、どういいう特徴があるのか、教えてほしい。

とはいえ、手短かに説明するのは無理である。思いつくままに有名な祭りをあげても、ねぶた祭、竿燈まつり、三社祭、祇園祭、だんじり祭、博多どんたく、……。これでもたぶん郷土愛に満ちた人から「なぜこれをあげない」と叱られるにちがいない。さらに雪まつりや阿波踊りなども考えると、その多様性に果然とせざるをえない。

そこで、実にさまざまな形のお祭りがあることを断った上

## 問題例文

「お祭り」とひと口にいつてもいろいろなものがありますが、私の町のお祭りは秋に神社で行われるものです。たぶん秋の収穫に感謝するという意味があるのだと思います。参道や境内には多くの屋台が並び、大勢の人が集まってとてもにぎやかになります。そしていちばん盛り上がるのはなんといいってもお神輿です。お神輿をかついで、勇ましく声をかけ合いながら町中を歩きます。これは、日本の各地で行われている、ごく普通のお祭りの形です。

## 問1

日本語はかなりできるが日本のはあまり知らない、そういう相手であることを考慮して、問題例文では伝わらない、あるいは説明不足になっていると思われる点を指摘せよ。

次に六個のポイントをあげておいた。あなたはいくつ気がつくだろうか。

## 2 文化を見つめる

参考 相手のことを考える

野矢茂樹

参考資料



で、太郎は自分の町のお祭りについて説明することにした。それは全国的に有名な祭りなどではないが、それだけに、どこにでもある日本の祭りの一つの典型になっているだろう。そう考えて太郎は、自分の町のお祭りについて、以下のような内容の説明を与えた。

- 神社とは何か。
- 参道とは何か。
- 境内とは何か。
- 屋台とは何か。
- お神輿とは何か。
- なぜお神輿をかついで町中を歩くのか。



五番めと六番めは合わせて一つと数えてもよいだろうから、五個気がつけば上出来である。では、まず「神社」について考えてみよう。

## 問2

「神社」について「神をまつてある場所」と説明した。しかしこの説明では、日本語はかなりできるが日本のはあまり知らない相手には伝わらない。どうしてこれではだめか、その理由を述べ、わかりやすく説明し直せ。

「参考」では、対談やインタビュー、新聞記事など、**多様なテキスト**を取りあげています。

# 資料編

資料編には、**学習のさまざまな場面で活用できる資料や、表現力を身につけるための言語活動など**を豊富に掲載しています。

## 現代評論キーワード集

- 1 対話・言語・思考
- 2 文化・多文化共生
- 3 情報・経済・科学技術
- 4 自然・環境・生命

## 表現の技法

- 1 調査・情報収集
- 2 引用
- 3 要約
- 4 比較
- 5 論理構成
- 6 接続
- 7 推論
- 8 推敲

## 「書くこと」のレッスン

新聞投書  
課題文型小論文  
なぜ私たちは労働するのか 内田樹

手紙・メールの形式  
話し合いの形式

高等学校で学習する言訓のある  
常用漢字一覧  
常用漢字表 付表

実用的文章の形式  
小論文のための方略

テーマや教材の内容に関連した「ブックガイド」を単元末に設けています。  
単元で学習したことから、スムーズに**読書へと広げ**ることができます。



## ブックガイド



「日本独特の美」とは何か。伝統に裏づけられた日本人の美意識に着目し、西洋美術との相互関係や比較を通して日本美術の特質を浮かび上がらせる。



増補  
日本美術を見る眼  
高階秀爾

日本人の美意識を表す「いき（粋）」とは何かを哲学的に明らかにする。「いき」の現象をその構造と表現から捉えた古典的名著。



「いき」の構造  
九鬼周造

明るく照らされた室内の電灯を消すと見えてくる陰翳の中の美。小説家の流麗な文体で、西洋との比較から日本的な美を語る。



陰翳礼讃  
谷崎潤一郎

筆者が暮らした経験のあるイタリアとフランスの各地を訪ね、広場、噴水、モニュメントなど、都市を形づくる要素と仕掛けを解き明かしていく。



ヨーロッパの都市はなぜ美しいのか  
佐野敬彦

歴史と人物を書き続けた司馬と、日本文化の研究者であるキーンの対談。話題は文化だけでなく、モラルや価値観にまで及ぶ。



日本人と日本文化  
対談  
司馬遼太郎  
ドナルド・キーン

箱庭、扇子、折詰弁当など、さまざまなものを「縮ませ」る傾向が日本にはある。身近な例から日本文化の特質を語る文化論。



「縮み」志向の日本人  
李御寧

## 単元の振り返り



- 比較することで文化の特徴を明らかにする論理展開の仕方を理解することができたか
- 色彩に着目して文化の特徴を論じる文章構成や表現の工夫の仕方を理解することができたか
- 読み手の理解が得られるよう、文章構成や表現を工夫することができたか



自分の学習を振り返ってこれからの学習へと生かす「単元の振り返り」を設定しました。  
各項目は、単元扉に示した「学習目標」と対応しており、「観点別評価」にも活用できます。



現代評論の読解を支える、基本的な知識を分野別に解説した「現代評論キーワード集」を新設しました。

現代評論  
キーワード集  
1

## 対話・言語・思考

① 知らないものに出会う  
対話／会話 対話[dialogue]は、向かい合って話すこと。異なる背景(経験や価値観など)をもつ者どうしなどが、双方向[interactive]に考えを伝え合い、相手の言葉を受け止めながら、理解の溝を埋めるべくやりとりをすることをいう。本を読むとき、私たちは著者という見知らぬ他者と対話していると考ええることもできる。対義語は独言[monologue]。会話[conversation]が日常の中で行われるのに対して、対話は通常のコミュニケーションでは解決できないような問題が生じたとき、あえて相互理解を深めるための場を用意して行うところに特徴がある。

原体験[original experience] 記憶の底にいつまでも残り、その人がなんらかの形でこだわり続けるものを指し、その人の人格や思想を形成する起点[orig.]となるような経験のことをいう。

可塑性 対象にある力を加えることによって、その力を除いても変形したまま戻らなくなるような性質を指す。思うままに形を作ることのできる粘土のようなものをイメージすればいい。

よい。現代評論の中では、力が加わることで全く別の物に変化する可能性のこととして「可変性」と受け取るのが適当な場合もある。土をこねて物の形を作る意の塑性[plasticity]は、削って形を浮かび上がらせる彫性[carving ability]と対を成し、合わせて彫塑という。

自己・自我・自分／他者・他我・他人 自分「[ ]」という言葉の用途は広く、「自分の身体」「自分の考え」のように、具体的・抽象的なもの、いずれの場合にも使う。一方、自己[se]は、「自己の信念に従う」のように、抽象的なものに対して使われることが多い。また、自我[ego]が「自分が考える自分」のことを指すのに対し、自己は「他者との関係の中にある自分」に重きを置く。他者[other]は、「自分ではない人」として具体的な他人[another person]という場合と、哲学などで「自己とは根本的に異なる理解の及ばない存在」として他我[other self]とされる場合とがある。

言葉／言語 言葉[word]が、思いや考えとして表現された音声や文字そのものを指すのに対し、言語[language]は、ある共同体で話される言葉のまとまりを、ルールや構造を伴った

① 知らないものに出会う  
② 言葉と向き合う  
③ 思考の枠組みを広げる

たものとして体系化したものを指す。スイスの言語学者ソシュール[Ferdinand de Saussure (1857-1913)]の言語学では、個人の実際の発話行為のことをパロール[parole (フランス語)]、音声・語彙・文法規則のことをラング[langue (フランス語)]という。

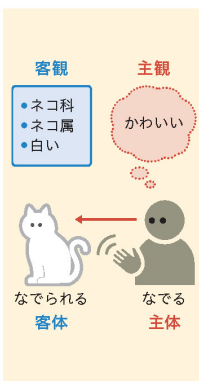
概念／観念 概念[concept]は、「……とは何か」ということについて、言葉や記号などで表される、まとまった意味内容を指す。語源は中世ラテン語の[conceptum]で、「孕まれたもの」を意味する。一方、観念[idée]は、頭の中にもつ考えやイメージのこと。合成語の「既成概念」は、既にできあがっている従来の考えや考え方、「固定観念」は、考え方が凝り固まっていること。両者と似ているが「固定概念」は誤用とされる。

④ 言葉と向き合う

記号／記号論 事物や事象、観念などを代理して表現するものを全てを記号とすれば、音楽や絵画、CMやファッションなども記号として捉えることができる。それら記号のもつ意味作用を私たちの社会の文化現象として考察するのが記号論である。

⑤ 思考の枠組みを広げる

主観／客観 主観[subjective]は、物事を捉える個人の心のはたらきのこと。客観[objective]は、個人の心のはたらきを離れて存在するもの。主体／客体も英語では同じ表記。主体は、他に対して何かを行い作用を及ぼす側。客体は、作用を及ぼされる側の側のこと。対象。



文脈[context] 文章や文の中での、意味の続きぐあい。筋道。脈絡。広義では、ある事柄の背景や周辺の状況など、一連の大きな流れのことを指す。

普遍／特殊 普遍[universal]は、全ての物事に共通していること。「普」も「遍」もあまねく、もれなくの意。特殊[special]は、個別の限られた物事にしかあてはまらないこと。

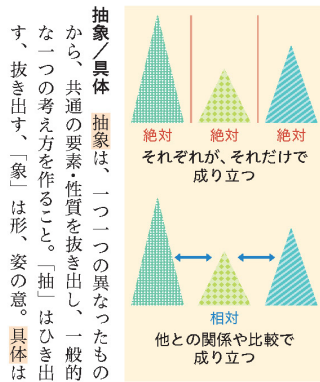
メタ[meta] 超越した、高次の、意を表す接頭語。一段高いところから俯瞰で物事を見る(考える)場合に用いられる。例えばメタ認知とは、自分が認知していることを、自身を超越したところから客観的に捉えることを指す。

イラストも交えつつ、それぞれのキーワードをわかりやすく、的確に解説しています。

構造主義 構造は、機械・組織・文章などの全体を成り立たせる、内部の組み立てのこと。構造主義は、諸現象を記号の体系として捉え、要素間の規則・関係など、現象に潜在する構造を抽出し、その理解・分析を重視する考え方。

絶対／相対 絶対は、それだけで成り立つこと。

他の何物にも支配・制限されないこと。相対は、他との関係や比較においてのみ成り立つこと。絶対化／相対化という形で使われることが多い。この「相対」が「主義」と結びついて「相対主義」になると、絶対的なものはないでもないという考え方になる。「文化相対主義」は、それぞれの文化の間に優劣はなく、全ての文化は対等であり、どれも尊重されべきという考え方を指す言葉である。



資料編

現代評論キーワード集



「表現の技法」では、読解を自らの表現へとつなげていくための、情報収集や論理的に表現するための方略をまとめています。



表現の技法

## 1

## 調査・情報収集

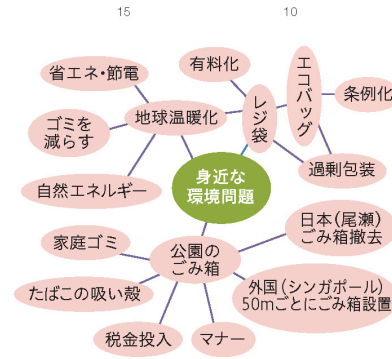


文章を書く際には、頭の中にある知識だけでなく、調査して得た情報を活用し、豊富な材料をもとにすることで、わかりやすさや説得力を高めることができる。

調査・情報収集には、さまざまな方法がある。それぞれの特徴を理解し、目的に合わせて情報を収集できるようにしよう。

## 1 マッピング

図のように、中心にテーマを書き、そこから連想される事柄を周りに書き出していく。それぞれの線を線で結んでクモの巣のように張り巡らせ、関連を整理する。この方法をマッピングという。マッピングは、思考を可視化する上でも有効である。



## 3 インターネットで調べる

インターネットを活用すれば膨大な情報を瞬時に入手できるが、発信者を特定できなかったり、誤った情報であったりする場合がある。全ての情報が正しいとは限らないということをふまえ、他のサイトや書籍など、複数の資料を使って確認することが重要である。

「1 マッピング」で書き出した言葉をインターネットの検索サイトで入力すれば、関連するウェブサイトが多数表示され、そこから情報を得ることができる。ただし、次の点に注意する。

●関連するサイトが多すぎたり、関連の薄いサイトまで表示されたりして、必要な情報にたどりつけないことがある。そのときは、検索語を複数入力するなど、条件を変えて検索し直す必要がある。

●検索結果の表示順は、コンピュータプログラムによって決められる。最初に表示されたからといって、信用がおけるとは限らない。

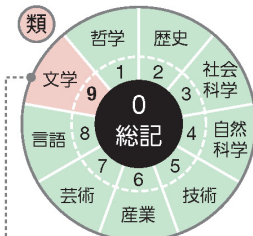
## 4 その他の調査・情報収集の方法

## ◆インタビュー

特定の人物を対象とした調査方法。相手に目的・内容・方法・用途を伝え、事前に許可を得てから行う。当日までに聞くべき事柄を整理しておく。記録は、その場でメモを取るか、相手の了承を得て録音する。

## 2 図書館で調べる

図書館には多くの資料が所蔵されており、それらが「日本十進分類法(NDC)」に従って分類・整理されている。図書館で閲覧できる書籍や雑誌などの刊行物は、一定の評価を得たものであることが多いため、ある程度信頼できると判断された情報を入手できる。



資料を探すときには、自分の欲しい情報が書名に使われているとは限らないことに注意し、「1 マッピング」で書き出した言葉を使って、広い視点で探すといよい。

## 目

|     |               |
|-----|---------------|
| 911 | 詩歌            |
| 912 | 戯曲            |
| 913 | 小説・物語         |
| 914 | 評論・エッセイ・随筆    |
| 915 | 日記・書簡・紀行      |
| 916 | 記録・手記・ルポルタージュ |
| 917 | 箴言・アフォリズム・寸言  |
| 918 | 作品集           |
| 919 | 漢詩文・日本漢文学     |



巻数・シリーズ数など著者の頭文字など

## 910 日本文学

|    |                      |
|----|----------------------|
| 91 | 日本文学                 |
| 92 | 中国文学・その他の東洋文学        |
| 93 | 英米文学                 |
| 94 | ドイツ文学・その他のゲルマン文学     |
| 95 | フランス文学・プロバンス文学       |
| 96 | スペイン文学・ポルトガル文学       |
| 97 | イタリア文学・その他のロマンス文学    |
| 98 | ロシア・ソビエト文学・その他のスラブ文学 |
| 99 | その他の諸言語文学            |

## ◆アンケート

多人数を対象とした調査方法。調査項目、対象者、規模を決め、質問用紙やアンケートフォームを作成する。回収した回答を集計し、結果を表やグラフなどにまとめる。

## ◆フィールドワーク

さまざまな事物や自然を対象とし、テーマに即した場所へ実際に訪れ、直接観察したり聞き取りをしたりする調査方法。調査に適した場所、時期、期間を調べてから行う。目的に応じて記録の形式を考え、必要な機器があれば用意しておく。

## ◆講演会やセミナーなど

テーマについて研究している専門家などの話を聞く調査方法。質疑応答や討論の時間が設けられる場合があり、さらに知りたいことや疑問に思ったことについて、理解を深めることができる。

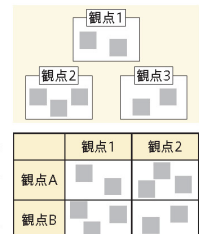
## 5 情報を収集したら

## ◆分類する

分野別、媒体別などの観点を決めて分類する。付箋やカードを用いて図や表の形で分類すると、情報どうしの関係性がわかりやすくなる。

## ◆情報の信頼性を確認する

著作者・発行者や、発行日・発信日・閲覧日など、情報の出所を記録する。他の情報源にもあたり、比較して信頼性を確認する。



図やイラストも交えつつ、それぞれのポイントを簡潔に紹介しています。

裏見返しでは、テーマの見つけ方や論の展開の仕方など**小論文を書く際の実践的で汎用性のある方略**を、図解を用いてわかりやすく解説しています。

## 小論文のための方略 ～タネの見つけ方・育て方～

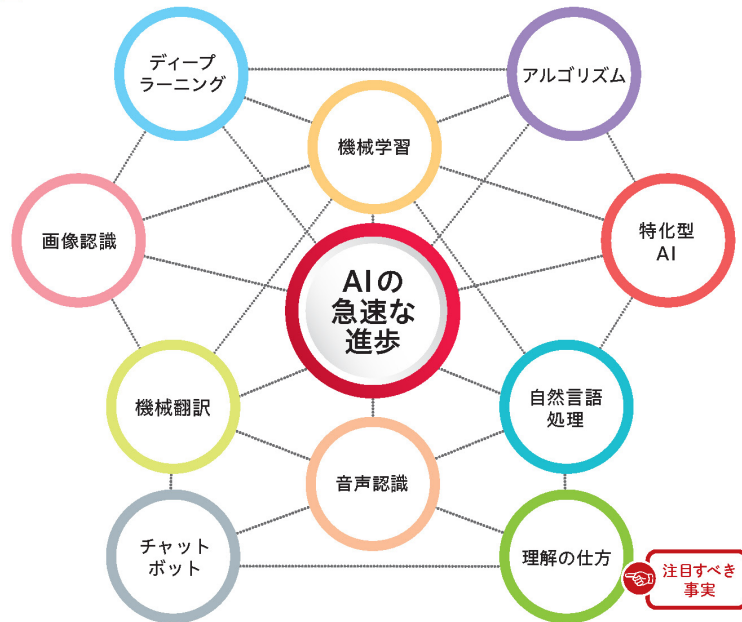


自分でテーマを選んで小論文を書く場合、テーマを決めるだけでは、何から書き始めればよいのか、どのように論を展開すればよいのか、見通しをもつことは難しい。ここでは、テーマについて具体的な問いを立て、序論・本論・結論の形で筋道を立てて述べる方法の一例を示す。

### 1. テーマを広げる

選んだテーマについて調べ、キーワードや論点をマッピングで広げていく。

例 AIの急速な進歩



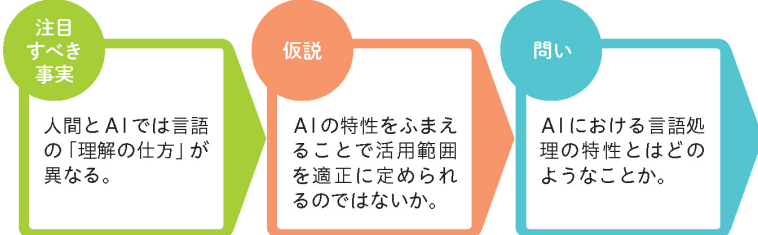
### 2. 問いを立てる

調べたことをもとに、次の3点について整理する。

- 事実** 調べたことの中から「注目すべき事実」を取りあげる
- 仮説** 「注目すべき事実」をふまえた自分の考えを「仮説」としておく
- 問い** 「仮説」を導くような「問い」を立てる

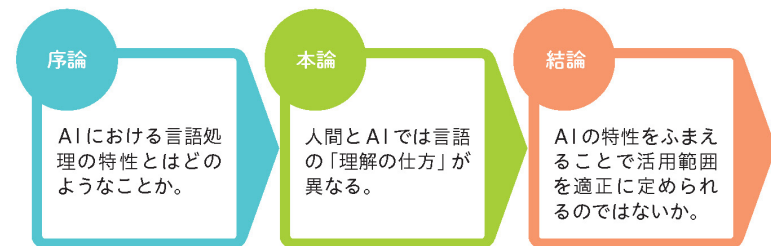
例 「〇〇において〇〇はどのように〇〇しているのか。」  
領域                      対象                      内容

「AIの急速な進歩」というテーマからキーワードを広げていく中で、AIはすでにさまざまな分野で活用されているが、そもそもAIにおける言語の「理解の仕方」が人間とは異なるという「注目すべき事実」を知ることとなる。そこから、この先、人間がAIと共存していくために、AIの情報処理、特に言語処理の特性を知ることができれば、AIの活用範囲を適正に定められるのではないかと「仮説」が導き出せる。そこで、自然言語処理の領域において、AIはどのように言葉を理解しているのか（＝AIにおける言語処理の特性とはどのようなことか）という「問い」を立てることができる。文章理解の質的違いという観点で比較することで、AIの活用範囲を適正に定めることができ、相互の共存可能性を探っていくようなものである。



### 3. 見通しをもつ

「注目すべき事実」・「仮説」・「問い」の流れでテーマを掘り下げることができたところで、今度は「問い」を先頭にもってきて、順番を並べ替えてみる。すると、上記3点がレポートの序論・本論・結論の柱になりそうなが見えてくる。



ここまでの過程をふまえ、本論で考察する項目を具体的にしていくことで、小論文の構成を組み立てることができる。

＜題目＞人間と生成AIの文章理解の違い

＜構成＞【序論】生成AIと記号接地問題

- 【本論】(1) 大規模言語モデルと言語理解
- (2) 矛盾する内容と訂正のプロセス
- (3) 生成AIを使った検証

【結論】人間とAIの今後



小論文例

二次元コードから、**小論文例**にアクセスすることもできます。